

「ようだ／ようだった」「らしい／らしかった」における「主体的な側面」と「客体的な側面」

— 副詞との共起関係から —

金 恵 娟

1. はじめに

仁田 (1989) は「真の典型的なモダリティは、言表事態や発話・伝達のあり方をめぐっての発話時における話し手の心的態度の言語的表現である (p.34)」と述べ、こうした要件を充たしていない、つまり、形式自体が過去形になる形式、「ようだ」「らしい」などはもはや発話時の心的態度を表すものではないと述べた。また、仁田 (1989) は、タ形の「ようだった」「らしかった」について「これらが表しているものは、心的態度や心的態度に関するものであるにしても、もはや主体的な心的態度の表明そのものではなく、客体化された態度の存在やそういった心的態度を起こさせる客観的な世界の様相といったものへと移っていつているものと思われる (p.37)」と述べている。

- (1) 彼はそこを勘違いしている ようだった。(天使) (仁田 (1989) p.36)
- (2) 世間体といわれて、育子の心もさすがにちよびり動揺したらしかった。(荷物) (仁田 (1989) p.36)

また、高瀬 (1999) は「モダリティというものを、主体的なものと客体的なものとの統一物ととらえるといっても、主体的なものと客体的なものが、つねに一定の割合で固定されているというわけではないであろう。具体的な使用場面や、テンス形式のちがいで、主体的な側面が前面にでたり、客体的な側面が前面にでるということがおこってくるはずである (p.85)」と述べた。そして、「ようだった／らしかった」は「ようだ／らしい」に比べ、「おしはかり」の意味が後退し、「らしさ・ようすの記述」の意味が前面に出ると述べている。

- (3) (前略)「どうするって言っても、どうにもならないわ」と理枝はまえよりもすこしふとい声になっていった。妊娠すると声帯までかわるらしかった。(四十八歳の抵抗) (高瀬 (1999) p.89)
- (4) (前略) 菊池はなおも宮内の顔をみつづけたが、彼の証言の信用性について、

高瀬 (1999) は(3)(4)はそれぞれ「『理枝の声のらしさ』(中略)『菊池のようす』の時間のなかでの存在を、かたり手がとらえて記述している (p.90)」と述べている。

本稿では、仁田 (1989)、高瀬 (1999) に従い、「主体的」とは、話者の「心的態度」を表すことであり、「客体的」とは、「様相の記述」であると考えられる。そして、「ようだ／らしい」のル形・タ形の「主体的」な心的態度は「推量判断」であり、「客体的」な「様相の記述」は「ようす・らしさの記述」であり、さらに、「ようす・らしさの記述」は事態を事実として表すことと考える。

しかし、仁田 (1989)、高瀬 (1999) のル形の「主体的」、また、タ形の「客体的」は直感に基づくものである。そこで本稿では、「ようだ／らしい」のル形は「主体的」、タ形は「客体的」であることは認めた上で、主体的な副詞、客体的な副詞との共起から実証的に、「ようだ／らしい」のル形は「主体的」であり、タ形は「客体的」であることを示す。また、本稿では、「ようだ／らしい」のル形は「主体的」であるが、「客体的」な側面も持っており、タ形は「客体的」であるが、「主体的」な側面も持っていることを副詞との共起関係から明らかにする。

2. 「たしか」「あきらかに」「たしかに」と「どうやら」の文末形式

「ようだった」「らしかった」の意味を副詞との共起関係から、また、「ようだ」「らしい」の意味を「どうやら」以外の副詞との共起関係から述べた先行研究は管見の限りでは見当たらない。ただし、本稿で取り上げる副詞については森本 (1994)、工藤 (2000) などが取り上げている。

森本 (1994) は「どうやら」は、「文の内容 (推論) の真実性が、ある程度、証拠 (= 認知的経験) に裏付けられていることを示すのである (p.93)」と述べた。また、森本 (1994) は「たしか」「たしかに」「あきらかに」は「文の命題内容についての真理判断にかかわっており、文の内容に認知的なコメントをつけるといえる。このような機能を共有しながら、真実を認定する上で態度の違いをみせるのである。(p.108)」と述べた。また、森本 (1994) は、文の真実性についてコメントをするという機能から、「たしか」「たしかに」「あきらかに」は、「事実を表す文と自然に結びつくということがいえる (p.115)」と述べた。森本 (1994) に従えば、「どうやら」と「たしか」「たしかに」「あきらかに」は異なる文末形式と共起することが予想される。

工藤 (2002) は「あきらかに」「たしか」「どうやら」「たしかに」を認知的な叙法と分類しているが、「たしかに」は用いられる文の陳述的なタイプがほぼ叙述文に限られるという叙法的な共起制限はあるが、積極的に一定の述語形式と呼応する現象が見られないものであるとし、一定の述語形式と呼応する「あきらかに」「たしか」「どうやら」とは区別している。しかし、森本 (1994)、工藤 (2002) はこれらの副詞と文末形式の共起関

係については述べているものの、それぞれの副詞が具体的にどのような文末形式と共起するのかについては言及していない。

そこで、本稿では、毎日新聞¹の用例分析から「たしか」「あきらかに」「たしかに」「どうやら」を含む文の文末形式を調べ、森本（1994）、工藤（2002）を検証し、それぞれの副詞の文末形式の特徴について考察する。副詞の文末形式を調べることによってその副詞の意味を分析することができる。このような叙法に関わる副詞と共起できる文末形式は少なくともその副詞の意味と矛盾しないからである。さらに、このような叙法に関わる副詞の文末形式が一定の文末形式で現れる傾向がある場合、その副詞とその文末形式は共通の意味を持っている可能性があると考えられる。

本稿では、ル形・タ形・名詞止め、「名詞＋だ」などの形式を無標形式と呼ぶ。それに対し、「だろう」「かもしれない」「はずだ」「のだ」「らしい」などの形式をモダリティ形式と呼ぶ。本稿での無標形式とは、形式上の定義である。また、本稿では、文末が無標形式で終わる場合、その文は事実を表すと考え、文末がモダリティ形式で終わる場合、その文は話し手の心的態度を表すと考える。

さらに、本稿で取り上げる副詞の文末が無標形式で終わる傾向がある場合、その副詞は事実を表す文と結びつく傾向があると考え、その副詞は客体的であると考え。それに対し、本稿で取り上げる副詞の文末がモダリティ形式で終わる場合、その副詞は心的態度を表す文と結びつく傾向があると考え、その副詞は主体的であると考え。

2.1 「たしか」の文末形式

<表1> 「たしか（確か）²」文の文末形式

無標形式	ル形	11 / 101 例 (約 11%)	101 / 120 例 (約 84%)
	タ形	77 / 101 例 (約 76%)	
	その他 (名詞など)	13 / 101 例 (約 13%)	
モダリティ形式	はずだ (17 例)、のだ (2 例)		19 / 120 例 (約 16%)

<表1>から、「たしか」を含む文はモダリティ形式で終わるより無標形式で終わることがわかる。

(5) 確かこのタワーの地は芝生が大きく広がっていた。(00/01/30)

また、<表1>から「たしか」がモダリティ形式と共起している場合があるが、主に「はずだ」と共起していることがわかる。

(6) その頃確か毎日新聞紙上に山崎豊子さんの「女の勲章」が連載されていたはずです。(00/02/02)

森田（1982）は「『確か』は事柄の成立を、ある客観的根拠をもとに“間違いなく”

と判断する働きを持つ。そこで、話し手自身の記憶による事実を受けると、「判断の根拠は記憶なので不確かだが、その記憶が正しいとすればその事柄は間違いなく成立するはずだ」という含みを持った表現となる。(p.269)」と述べた。また、森山 (2006) は「『はずだ』で直接経験を取り上げる場合も、自分の記憶をその根拠としているといえる (p.248)」と述べている。「たしか」は(7) (8)のように「記憶」と関係している表現、過去を表す表現と共起することがわかる³。

- (7) 1970年代に大都市での光化学スモッグが問題になりましたが、あれは確かオゾンが原因だったと記憶しています。(00/04/21)
- (8) 確か、13年ほど前のことだ。(00/01/28)

タ形は主に過去の事態を表し、「たしか」の‘記憶’の意味とも矛盾しない。‘記憶’というのは過去の事態を思い出すことであるからである。このことから、「たしか」を含む文の文末形式は「たしか」の意味とも関係していると考えられる。

また、(9)は「たしか」を含む文が「のだ」で終わっている例である。

- (9) いえ、たしか犯人は捕まったんですけど、それが誰(だれ)でどうやって逃げたんだか……。 (98/10/04)

森山・安達 (1996) は、「のだ」は、既定の事態として捉えるという基本的な意味があると述べた。つまり、「のだ」は事態を既定の事態として捉えており、事実を表すと考えられる。

また、<表1>から「たしか」を含む文はタ形で終わる傾向があることがわかる。これは後述する他の副詞の文末形式からみても「たしか」を含む文はタ形で終わる傾向があるといえる。タ形は過去を表すことができ、過去に起こった事態は既定であるため、事実を表しやすいと思われる。

以上、「たしか」を含む文が主に無標形式のタ形で終わり、モダリティ形式で終わる場合も、事態を事実として捉える形式で終わることから、「たしか」は事態を事実として記述する文と結びつきやすいといえる。つまり、「たしか」は客体的であるといえる。

2.2 「あきらかに」の文末形式

<表2> 「あきらかに (明らかに)」の文末形式

無標形式	ル形	88 / 161 例 (約 55%)	161 / 173 例 (約 93%)
	タ形	47 / 161 例 (約 30%)	
	その他 (名詞など)	26 / 161 例 (約 16%)	
モダリティ形式	のだ (8例)、その他 (べきだ、ようだ、はずだ、だろう) (4例)		12 / 173 例 (約 7%)

<表 2>から「あきらかに」を含む文はモダリティ形式で終わるより、無標形式で終わる傾向があることがわかる。

(10) 競争相手の製品を使うなど明らかに入札制度を骨抜きにしている。(00/01/23)

森本(1994)は「あきらかに」がつく文では、認知的証拠に支えられた、話し手の推論内容が真実として示され、その確実性が高いことを表すと述べた。また、<表 2>から、「あきらかに」を含む文がモダリティ形式で終わる場合、「のだ」で終わることがわかる。「あきらかに」を含む文が「のだ」で終わることは両者の「事実を表す」という意味が共通しているからであると考えられる。

(11) これらは明らかに政策を超えているのだ。(00/07/24)

(12) 明らかに釣り人の危ないたくらみを見抜いているのだ。(00/10/25)

ところが、(13)は「あきらかに」を含む文が「だろう」で終わっている例である。

(13) ある方向に突出しながら、バランスがとれているというもおかしな表現だが、まさにそういうにふさわしい、手慣れた構成となっているように感じられた。このような展覧会は、明らかに多くの人にもおもしろいという印象を与えるだろう。また特に 17、18 歳から、30 歳くらいまでの人たちの現代のカルチャーに非常に近いことから、トレンドに敏感な若者達の共感を得るだろうということも想像がつく。(00/11/02)

(13)のように「あきらかに」を含む文が「だろう」で終わる例は 173 例中、1 例しかなかった。(13)は話し手の解釈を述べている文であり、この場合、「だろう」を削除すると話し手の解釈を断定として述べることになる。(13)は話し手の意見を和らげるため、「だろう」が用いられたとも考えられる。(13)'は「だろう」を削除した例である。

(13)' このような展覧会は、明らかに多くの人にもおもしろいという印象を与える。

(13)の「だろう」が自分の解釈(主張)を和らげるための「婉曲」の意味を表していると考え、この場合の「だろう」は事実を表すといえる。

以上、「あきらかに」を含む文の文末は無標形式で終わる傾向があり、モダリティ形式で終わる場合も事実を表すモダリティ形式で終わることを述べた。このことから、「あきらかに」は事態を事実として記述する文と結びつきやすいといえる。つまり、「あきらかに」は客体的であるといえる。

2.3 「たしかに」の文末形式

＜表3＞「たしかに（確かに）⁵」の文末形式

無標形式	ル形	71 / 102 例 (約 70%)	102 / 122 例 (約 84%)
	タ形	28 / 102 例 (約 27%)	
	その他 (名詞など)	3 / 102 例 (約 3%)	
モダリティ形式	だろう (12 例)、かもしれない (2)、にちがいない (2)、 その他 (のだ、わけだ、ようだ、(し) そうだ) (4)	20 / 122 (約 16%)	

＜表3＞から、「たしかに」を含む文の文末形式はモダリティ形式で終わるより無標形式で終わることがわかる。

- (14) 言葉にはもちろん熱はこもるが、「思い入れ」とか「ひいきの引き倒し」とは たしかに違っていた。(00/02/05)

また、「たしかに」は工藤（2002）で述べられているように、文末形式に様々なモダリティ形式が現れる。

- (15)～(17)は「たしかに」を含む文が「だろう」で終わる場合の例である。

- (15) 脱原発を目指す市民団体の幹部は「身近に多くの原子力施設を持ちながら、どこにどんな施設があるかや、その危険性について知らなかったのは住民の勉強不足。そのツケが回ってきた」と話す。確かにその面もあるだろう。しかし、火災・爆発事故は、旧動燃が「火災事故は考えられない」と位置づけていた施設で起きた。(00/10/05)
- (16) このため、ヨーク堂から打診を受けた時、金融当局がまず当惑したのが、「貸し付けをしなくても銀行か」という点にあった。確かに、預金の受け入れと貸し付けを併せて行のが銀行の一般的なイメージだろう。しかし、銀行固有の業務で最後まで残るものといえば、決済機能である。だから決済専門銀行も立派な銀行だ。金融当局は伝統的な銀行法の解釈にとらわれるべきではない。(00/01/21)
- (17) お相撲さんは、よく身体を触られる職業でもある。花道を引き揚げる力士が肩の辺りをぺんぺんと叩かれる風景は、かつてよく目にしたし、人の集まる所に行くところ、すぐに叩いたり触ったりする人がいる。確かに、一際大きなお相撲さんの傍にいます、その大きさをじかに確かめてみたい、つい触ってみたい気持ちにもなるだろう。また、昔からお相撲さんに抱いてもらったり触ってもらったりすると病気が治る、丈夫になるなどといった言い伝えがあったともいう。(00/09/17)

- (15) (16) は「たしかに～だろう」の後に、「しかし」が現れている。つまり、(15)

(16) では、「たしかに～だろう」のように対になった形で、前文の内容を一旦認めてから、前の文と異なる自分の意見を述べている。それに対し、(17) の「たしかに～だろう」文は、「たしかに」の前の文の内容を認め、次の文でも、「たしかに」を含む文の前の文の内容に同意している。(15)～(17) から、「たしかに」と共起している「だろう」は「明日は雨が降るだろう」の推量を表す「だろう」とは異なる意味機能を持っているとも考えられる。「たしかに」と共起している「だろう」は「たしかに」の前の文の内容を一旦認めてから、次の文で話者の意見を述べるという機能を持っていると考えられる。

また、(18) は「たしかに」文が「かもしれない」で終わる場合であるが、この場合の「かもしれない」も「たしかに～だろう」と同じ意味機能を果たしていると考えられる。

(18) 岡崎 武井さんはそうは変わらない、といわれる。たしかに目に見える変化はないかもしれない。でも5年、10年の間に必ず大きく変わる。(00/01/07)

(18) は話し手が「たしかに」の前の文の内容に同意した後、自分の意見を述べている。また、「たしかに」を含む文は「のだ」「にちがいない」で終わる場合がある。「のだ」は既に述べたように事実を表す形式であり、「にちがいない⁶」は事態を事実として捉えているため、用いられていると思われる。

(19) たしかに天下無双の馬乗りといわれても、この"天下"にはモンゴルは入っていないのだ。(00/01/16)

(20) たしかにそれも、この展覧会がそそる感興の一つにちがいない。(00/03/16)

工藤 (2002) で述べられているように「たしかに」は様々なモダリティ形式と共起する。しかし、<表3>から分かるように「たしかに」を含む文の文末は事実を表すモダリティ形式で終わる特徴があることから、本稿では、「たしかに」を文末形式に特徴のある副詞として用いる。

森本 (1994) は「たしかに」は事実確認であると述べた。用例分析から、「たしかに」の前は引用形式が現われ、また、「その通り」「そうだ」という表現と共起していることがわかった。

(21) いわゆる漢文訓読調では、文章の気分がみな荘重になってしまう。これは気の合った友達に読ませる戯文なのに、と。たしかにそうだ。(00/03/19)

(22) 最近、高血圧と死亡率という25年にわたる研究結果が発表された。それによると、たしかに血圧が高いと心筋こうそくなどの死亡率が高いことになるが、その危険性は人種により大きく異なるのである。(00/03/16)

(21) (22)の「たしかに」を含む文は前の文の内容を一旦認めてから、話し手の意見を述べている。前の文の内容を認めるということは、話し手は前の文の内容を事実として捉えているといえる。これは「たしかに」が事実を表す文と結びつきやすいことと関係していると考えられる。

以上、「たしかに」を含む文が無標形式で終わる傾向があり、モダリティ形式で終わる場合も事実を表すモダリティ形式で終わることを述べた。このことから、「たしかに」は事態を事実として記述する文と結びつきやすいといえる。つまり、「たしかに」は客体的であるといえる。

2.4 「どうやら」の文末形式

<表4> 「どうやら」の文末形式

無標形式	ル形	19 / 45 例 (約 42%)	45 / 149 例 (約 30%)
	タ形	14 / 45 例 (約 31%)	
	その他 (名詞など)	12 / 45 例 (約 27%)	
モダリティ形式	ようだ (うちタ形 1 例)	54 / 104 例 (約 52%)	104 / 149 例 (約 70%)
	らしい (うちタ形 1 例)	42 / 104 例 (約 40%)	
	その他 ((し) そうだ、のだ)	8 / 104 (約 8%)	

<表4>から「どうやら」を含む文は無標形式で終わるよりモダリティ形式で終わる傾向があることがわかる。これは、2.1～2.3で述べてきた「たしか」「あきらかに」「たしかに」とは対照的である。

(23) どうやら子供より先生の意識改革が必要らしい。(00/01/11)

(24)は「どうやら」を含む文が無標形式で終わる場合であるが、(24)′のように「ようだ」「らしい」で終わる方がより自然に感じられる。

(24) こう解説し、また死者をホトケと言ひ、仏陀の意味との両義性をもって使われるようになったのは中世から近世への移行期からとの見解を示した。どうやら日本仏教での魂の行方は仏教教説と民俗的理解のからみの中で説かれている。(00/01/26)

(24)′ どうやら日本仏教での魂の行方は仏教教説と民俗的理解のからみの中で説かれているようだ／らしい。

また、<表4>の無標形式の45例中、13例は「様子(だった)」「模様」「格好だ」「と見える」「見て取れます」「気配だ」「だという話だ」「と思う」のように、「ようだ」「らしい」に入れ替えられる表現で終わっている⁷。

- (25) どうやら骨は元に戻った様子だが、この年齢になると、リハビリが当初以上の痛みで、完全に参ってしまった。(00/07/07)
- (26) どうやら朝食ヌキで稽古に励んでいたと見える。(00/05/12)
- (27) それもどうやら夢ではなくなってきた気配だ。(00/10/05)

(24)～(27)から、「どうやら」文が無標形式で終わる場合も、自然さが落ちる、また「ようだ」「らしい」に入れ替えられる表現で終わることから、「どうやら」は、主体的な副詞であると考えられる⁸⁾。

以上、「たしか」「あきらかに」「たしかに」を含む文は無標形式で終わる傾向があり、「事実」を表す文と結びつきやすいことから、これらの副詞は「客体的」な副詞であると述べた。また、「どうやら」はモダリティ形式で終わる傾向があり、無標形式で終わる場合もモダリティ相当の表現で終わることから、「どうやら」は「主体的」な副詞であると述べた。

以上、森本(1994)の「たしか」「あきらかに」「たしかに」が「事実」を、「どうやら」が「推量」の文と結びつくという記述を用例分析から検証した。

3. 「ようだ／らしい」のル形・タ形と副詞との共起

2節では、「たしか」「あきらかに」「たしかに」を含む文が事実を表す文末形式で終わる傾向があり、「どうやら」を含む文がモダリティ形式、主に推量判断を表すモダリティ形式で終わる傾向があることを検証した。本節では、この結果をもとに、「ようだ／らしい」が客体的な副詞「たしか」「あきらかに」「たしかに」と共起する場合、そのモダリティ形式は事実(に近い)の意味を表すと考える。つまり、その場合のモダリティ形式は客体的な側面を持っていると考える。それに対し、モダリティ形式が主体的な副詞「どうやら」と共起する場合、そのモダリティ形式は主体的な側面を持っていると考える。また、用例分析からは「たしか」「あきらかに」「たしかに」を含む文が「ようだ／らしい」のル形・タ形で終わる例と「どうやら」が「ようだ／らしい」のタ形で終わる用例が少なかったため、本節では、検索エンジンから得られた用例を用いて、これらの副詞と「ようだ／らしい」のル形・タ形の共起関係について考察する⁹⁾。本節では、主体的な副詞、客体的な副詞との共起関係から、「ようだ／らしい」は主に主体的であるが、客体的な側面も持っていることを示す。また、「ようだった／らしかった」は主に客体的であるが、主体的な側面も持っていることを明らかにする。

3.1 「ようだ／ようだった」と副詞との共起

高瀬(1999)は「ようだ」は主体的な側面が前面に出ると述べた。これは、(28)のように、「ようだ」が主体的な副詞「どうやら」と共起することからいえる。

- (28) つぎ込むおカネも、女性は平均して 2万 9005円と、男性平均の 2万 7126円より高い。(中略) どうやら女性のほうが熱中しやすいようだ。(00/04/19)

しかし、(29) ~ (31) のように「ようだ」は客体的な副詞「たしか」「あきらかに」「たしかに」とも共起する。このことから、「ようだ」は客体的な側面も持っているといえる。

- (29) 多摩川でアザラシの「たまちゃん」が人気を博した少し後、立会川をのぼるボラたちが有名になったことがある。たしか地元商店街では「ぼらちゃん」と呼んでいたようだ。釣りをする人だったらくだらな騒ぎだなあと思ったはず。
(<http://www.1101.com/torikai/2005-09-12.html>)
- (30) 『ニムダ』を作り出した気むずかしいプログラマーは、自作のワームが望みどおり「コンセプトウイルス」と呼ばれなかったことに、明らかに腹を立てているようだ。(<http://wiredvision.jp/archives/200111/2001111201.html>)
- (31) 実際にそんなことが行われているのかどうか確認はしていないが、それで訴訟になったケースはたしかにあるようだ。
(http://www.melma.com/backnumber_53996)

(29)~(31)は「たしか」「あきらかに」「たしかに」と「ようだ」が共起しているが、この場合の「ようだ」は(28)の「ようだ」とは意味が異なる。(28)はつぎ込むおカネの金額が女性と男性で異なることから、「女性のほうが熱中しやすい」と「推量判断」している文である。それに対し、(29)(31)は「伝聞」、(30)は「様態」として解釈される。野林(1999)は、「ようだ」の「様態」の状況は「話者が自らの感覚によって直接とらえた事態の様子や印象を述べられるような場面である(p.85)」と述べた。つまり、「様態」は話者が直接捉えた様子や印象をそのまま述べるため、「様態」は「事実」を表すといえる。また、野林(1999)は「伝聞」の状況は、「他者から伝え聞きによって話者が間接的に知った(認識した)事柄(事態)が述べられている。(中略) 伝え聞いた事柄を話者が一応事実として思って述べている(p.83)」と述べた。つまり、「伝聞」は事態を「事実」として捉えているといえる。本稿では、野林(1999)の「様態」「伝聞」の説明に従い、「様態」「伝聞」は事実を表すと考える。(29)~(31)のように、客体的な副詞と共起している「ようだ」は事実を表し、その場合の「ようだ」は客体的である。

高瀬(1999)は、「ようだった」は、ようすの記述に主眼が置かれていると述べている。これは(32)~(34)のように「ようだった」が客体的な副詞と共起することからいえる。(32)~(34)は「様態」として解釈される。

- (32) 確か、河村須美子がアヤコともめていたようだったな 舞台がハネた後、楽屋に須美子がやってきてな、何か口論していたな。
(<http://bh.vis.ne.jp/gamedata/mikagura/taihakusei.html>)

- (33) 明らかに Sonyはこの新しい重量に関して、別の認識を持っているようだった。
(<http://blog.livedoor.jp/ozionid/archives/50040323.html>)
- (34) 待ち合わせの喫茶店に入る。窓際に座っている彼女は確かに誰かを待っているようだった。(http://www7a.biglobe.ne.jp/~anzukun/D3_77.htm)

しかし、「ようだった」は(35)(36)のように、主体的な副詞「どうやら」とも共起する。このことから、「ようだった」は主体的な側面も持っているといえる。

- (35) どうやら彼はここに現在滞在しているようだった。
(<http://d.hatena.ne.jp/D-brane/20070324>)
- (36) 郁美はどうやら少し酔っているようだった。
(<http://www.shinchosha.co.jp/books/html/458802.html>)

以上、主体的な副詞、客体的な副詞との共起関係から、「ようだ」は主体的な側面だけでなく、客体的な側面もあることを述べた。また、「ようだった」は客体的な側面だけでなく、主体的な側面もあることを述べた。しかし、<表4>から分かるように、主体的な副詞「どうやら」を含む文が「ようだ」で終わる場合の54例中、「ようだ」は53例であり、「ようだった」は(37)の1例であった。このことから、「ようだ」は主体的な側面が強く、「ようだった」は客体的な側面が強いと考えられる¹⁰。

- (37) 腰の位置にある電話に体を曲げて耳を近づけると、呼びだし音が聞こえ、通話に成功した。でも、若者たちは大笑いしている。どうやら物好きな外国人の奇妙な行動を見に、わざわざ山に集まったようだった。(00/05/12)

3.2 「らしい／らしかった」と副詞との共起

「らしい」は主体的な副詞「どうやら」と共起する。このことから、「らしい」は主体的な側面があるといえる。

- (38) どうやら背後に、中国人のグループが動いているらしい。(00/09/10)

しかし、「らしい」は(39)～(41)のように、客体的な副詞とも共起する。

- (39) 確か、被験者もさくらでバイトらしいです。みんなそれらしく演技して台本まであるらしいです。(http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail)
- (40) 再開後のウォッチ！は明らかに手抜きらしい。
(<http://blog.livedoor.jp/watches/archives/54069241.html>)
- (41) いずれにせよ、サンダース人形は、たしかに日本のであるらしい。じっさい、

多くの外国人が、日本であれを見た時はおどろいたと、言っていた。

(http://www.sanseido-publ.co.jp/publ/ningyo_yuwaku.html)

主体的な副詞と共起している(38)の「らしい」は「推量判断」として解釈されるのに対し、(39)～(41)のように客体的な副詞と共起している「らしい」は「伝聞」として解釈される。「らしい」が(38)～(41)のように、主体的な副詞とも客体的な副詞とも共起することから、「らしい」は主体的な側面だけでなく、客体的な側面も持っているといえる。

高瀬(1999)は、「らしかった」は「らしさの記述」の側面が前面に出ていると述べているが、これは(42)～(44)のように「らしかった」が客体的な副詞と共起することからもいえる。

(42) 成高は今年は倍率たしか1,05ぐらいらしかったです。クラスは、町田の都立高校のほとんどが1クラス減るそうです。

(<http://www.megabbs.com/cgi-bin/readres.cgi?bo=kanto&vi=1019043775&rm=100>)

(43) 噂として出回った写真は明らかにフェイクらしかったが、僕はそのネーミングに大きな期待を持った。(http://egt.tpot.tk/a/000278.html)

(44) そんなに素敵な人が、どういった理由があって私の恋人となったのかは忘れたが、その人はたしかに私を愛しているらしかった。

(<http://blog.goo.ne.jp/ntmym/d/20070317>)

しかし、「らしかった」は(45)(46)のように、主体的な副詞「どうやら」とも共起する。このことから、「らしかった」は主体的な側面も持っているといえる。

(45) 「それで、この前ね、いつものジムで泳いでいたらねえ、まあ、何回か私のことを誘ってくる... どうやらナンパされているらしかった。

(<http://blog.so-net.ne.jp/keisu/archive/c93175>)

(46) さきほどから左手の木立の向こうからざわざわと騒がしい音が聞こえてくるが、どうやら養鶏場があるらしかった。

(<http://www.natsuzora.com/may/town/suzakuji.html>)

客体的な副詞と共起している(42)～(44)の「らしかった」は「伝聞」あるいは「事態のらしさ」として解釈されるのに対し、主体的な副詞と共起している(45)(46)は「推量判断」として解釈されると思われる。

以上、主体的な副詞、客体的な副詞との共起関係から、「らしい」と「らしかった」は主体的な側面も客体的な側面も持っていることを述べた。しかし、<表4>から分かるように、主体的な副詞「どうやら」を含む文が「らしい」で終わる場合の42例中、「ら

しい」は41例であり、「らしかった」は(47)の1例であった。このことから、「らしい」は主体的な側面が強く、「らしかった」は客体的な側面が強いと考えられる。

(47) 初刊当時、風変わりな表題にひかれ、本屋の店先であちこち拾い読みしているうちに、目にとまったのが右に引いた数行。どうやらそれがテーマらしかったが、目にとまっただけでなく、正直言って首をかしげた。(00/02/20)

4. おわりに

本稿では、主体的な副詞、客体的な副詞との共起関係から、「ようだ／らしい」のル形は主体的であり、タ形は客体的であるが、「ようだ／らしい」のル形にも「客体的」な側面があり、「ようだ／らしい」のタ形にも「主体的」な側面があることを明らかにした。しかし、主体的な副詞「どうやら」とル形が共起する割合がタ形より遥かに多いことから、ル形は主体的な側面が強く、タ形は客体的な側面が強いと述べた。言い換えれば、「ようだ／らしい」は主体的な側面が強く、モダリティ性が高いと考えられ、「ようだった／らしかった」は客体的な側面が強く、モダリティ性が低いと考えられる。しかし、「ようだ／らしい」のル形が主体的な側面だけでなく、客体的な側面も持っていることから、「ようだ／らしい」はモダリティ形式の中でもモダリティ性の低いモダリティ形式として位置付けられる可能性があると思われる。今後、他のモダリティ形式のモダリティ性についても考察を行いたい。

【注】

- 1 毎日新聞 2000年の1年間分である。
- 2 「たしか（確か）」の2000年のデータは56例で数が少なかったので1998年の1年のデータ（64例）も分析対象に入れた。
- 3 「はずだ」の「記憶」「みこみ」「さとり」などの意味に関しては、岡部（2003）を参照されたい。
- 4 「あきらかに（明らかに）」は349例見つかり、他の副詞と用例の数をそろえるため、その1/2(173例)を分析対象とした。
- 5 「たしかに（確かに）」は1202例見つかり、他の副詞と用例の数をそろえるため、その1/10(122例)を分析対象とした。
- 6 「にちがいない」の事実の意味については三宅（1993）を参照されたい。
- 7 「ようだ」「らしい」の意味については野林（1999）などを参照されたい。
- 8 森田（1984）は、「どうやら」は「外面の様子や状況変化のきざしから将然状態にあることを感知する推定判断（p.193）」であると述べている。
- 9 www.google.co.jp と www.yahoo.co.jp から検索した。
- 10 www.google.co.jp と www.yahoo.co.jp から、「ようだ／らしい」のル形が主体的であると思われる副詞と共起している例はかなり見つかるが、客体的であると思われる副詞と共起している例は数がなかった。ル形・タ形の共起副詞の偏りに関しての提示方法については今後の課題としたい。

【参考文献】

- 岡部嘉幸 (2003)「ハズダとニチガイナイについて—両者の置き換えの可否を中心に」『日本語科学』13、pp.109-122
- 高瀬匡雄 (1999)「<論説>モーダルな意味の変更—「～らしい」「～ようだ」を中心に—」『立正大学文学部論叢』110、pp.83-98
- 工藤浩 (2002)「副詞と文の陳述的なタイプ」森山卓郎・仁田義雄・工藤浩編『日本語の文法3 モダリティ』、pp.164-234、岩波書店
- 仁田義雄 (1989)「現代日本語文のモダリティの体系と構造」、仁田義雄・益岡隆志編『日本語のモダリティ』pp.1-56、くろしお出版
- 野林靖彦 (1999)「類義のモダリティ形式「ヨウダ」「ラシイ」「ソウダ」—三水準にわたる重層的考察」『国語学』197、pp.89-77
- 三宅知広 (1993)「認識的モダリティにおける確信的判断について」『語文』61、pp.36-46
- 森田良行 (1982)『基礎日本語1』、角川書店
- 森田良行 (1984)『基礎日本語3』、角川書店
- 森本順子 (1994)『話し手の主観を表す副詞について』、くろしお出版
- 森山卓郎 (2006)「日本語モダリティ論」『日本語学会 夏期講座2006 Seminar Handbook』pp.235-263
- 森山卓郎・安達太郎 (1996)『日本語文法セルフマスターシリーズ6 文の述べ方』くろしお出版

【用例出典】

- ・毎日新聞2000年、1998年
- ・www.google.co.jp、www.yahoo.co.jp

(キム ヘヨン 筑波大学大学院博士課程 人文社会科学研究所 応用言語学)